

[番組名]群馬テレビ「ビジネスジャーナル」

[放送日]2015年10月9日

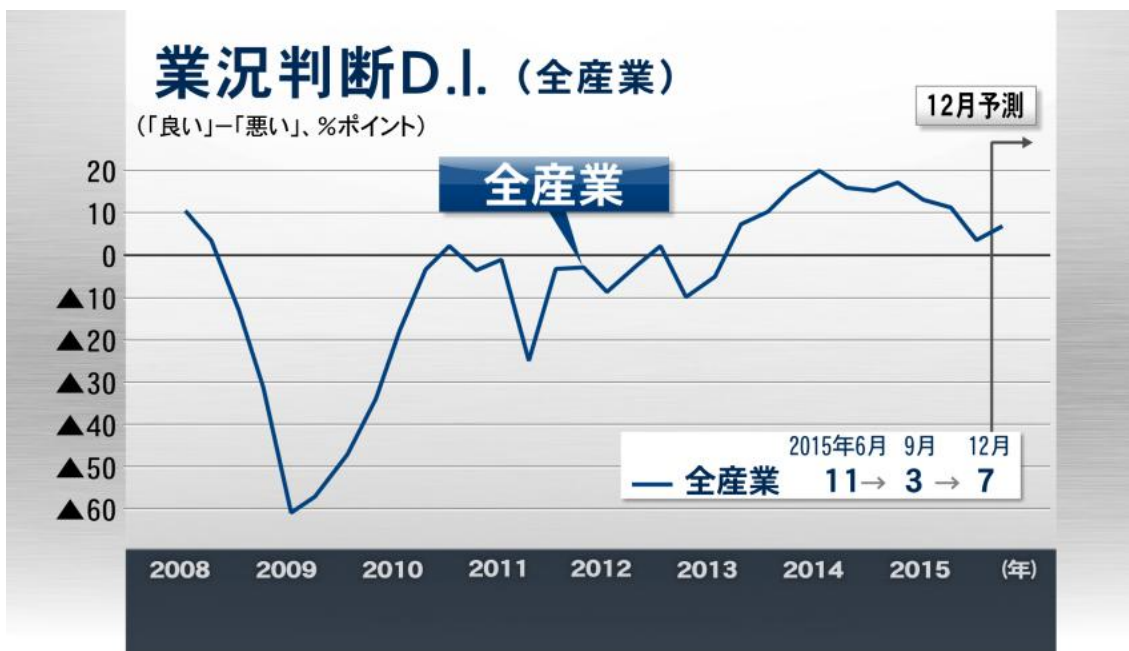
[テーマ]日銀短観でみる県内経済の足取り

(キャスター) 『プラスオピニオン』のコーナーは、日本銀行前橋支店長の神山一成さんに、『日銀短観でみる県内経済の足取り』というテーマでお話をうかがいます。よろしくお願いします。

(神山支店長) 日本銀行では、10月1日に「企業短期経済観測調査」、いわゆる日銀短観を公表しました。

本日は日銀短観から読み取れる、県内経済の足取りについてご説明したいと思います。

まずはフリップの業況判断D.I.の推移をご覧ください。



(神山支店長) 業況判断D.I.とは、景気が「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を引いた値で、「良い」と答えた企業が多いほど数値が高くなるものです。

今回9月調査の業況判断D.I.は、全産業で+3でした。前回6月調査では+11でしたので、▲8ポイントの悪化となります。悪化は3期連続となりましたが、先行き12月は+7と+4ポイント改善する見通しです。

次のフリップをご覧ください。



(神山支店長) 製造業と非製造業に分けてみますと、製造業は▲1と、前回+8から▲9ポイントの悪化となりました。マイナスとなるのは2013年3月調査以来、10四半期ぶりです。先行き12月は+6ポイント改善して+5、プラスに復する見通しです。

非製造業は+7と前回+14から▲7ポイントの悪化となった後、先行き12月は+10、+3ポイントの改善を見込んでいます。

製造業、非製造業とも、今回調査でははっきりした悪化を示しました。こうした悪化の要因について、製造業と非製造業に分けてみていきたいと思えます。

次のフリップをご覧ください。

9月短観のポイント

製造業

- ① 新興国経済の減速
- ② 国際商品市況の下落

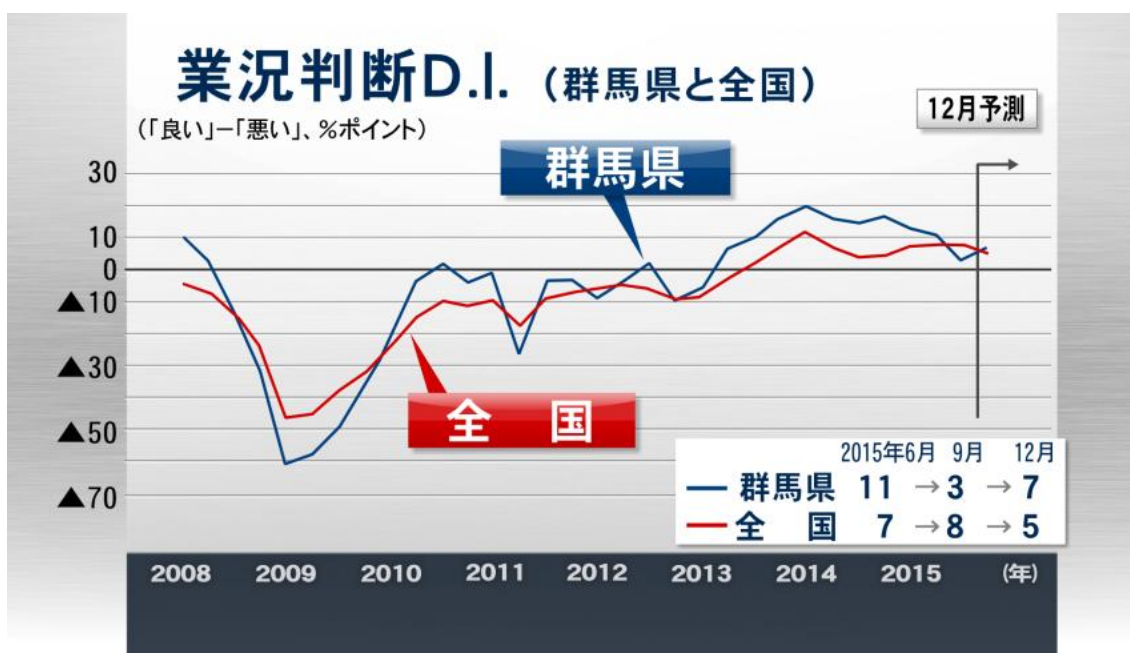
非製造業

- ① 公共工事の減少
- ② 天候不順

- (神山支店長) まず、製造業における悪化については、2つの要因を指摘できます。
- 1つ目の要因は、新興国経済の減速です。中国経済は、過剰設備問題などを背景に、減速が続いています。中国以外の新興国・資源国についても、中国向けの輸出の落ち込みや、資源価格の下落などから、成長ペースの鈍化を余儀なくされています。こうしたもとで、今回調査では、電気機械、はん用機械、鉄鋼など幅広い業種で、業況判断が慎重化しました。なお、北米向けが中心となる自動車のD.I.は+40と、今回調査においても良好な業況を維持しております。
- 2つ目の要因は、国際商品市況の下落です。新興国経済の減速に伴う需要の減少などが意識されるもとで国際商品市況は大きく下落しているため、販売価格の引き下げ圧力が引き続き強いとして、鉄鋼や非鉄金属などの業況判断が悪化しています。
- 次に、非製造業における悪化についても、2つの要因を指摘できます。
- 1つ目の要因として、公共工事の減少の影響が、建設や卸売で見られています。
- 2つ目の要因は、天候不順の影響です。8月下旬以降の長雨が、宿泊・飲食サービスの業況判断の悪化につながりました。

- (キャスター) 群馬県の業況判断D.I.が、久しぶりに全国を下回ったようですね。

(神山支店長) そうなんです。次のフリップをご覧ください。



(神山支店長) 群馬県の業況判断D.I.は、当地の主要産業である自動車の生産拡大などを背景に、2013年3月調査以降、全国のD.I.を上回った水準で推移していましたが、今回調査では11四半期振りに全国の水準を下回りました。

実は、全国の業況判断D.I.は+8と、前回+7から+1ポイントの改善となっています。

一つの要因として、全国では、訪日外国人の消費が拡大していること、いわゆるインバウンド消費の盛り上がりはD.I.の改善に働いています。群馬県の外国人観光客は増加傾向ではありますが、まだまだ水準は低く、全体を押し上げる力は小さい状況です。

なお、先行き12月は群馬県が改善する一方、全国は悪化する結果、再び群馬県のD.I.が全国を小幅ではありますが、上回る見通しです。

(キャスター) 先行き改善を見込んでいるということですが、本当に改善していくのでしょうか。

(神山支店長) 製造業では、はん用機械や業務用機械といった業種の業況判断が、外需の落ち込みから大幅に悪化しましたが、先行きは国内設備投資の増加から改善する見通しです。非製造業も、宿泊・飲食サービスではプレミアム宿泊券の利用本格化から、小売では新製品の投入から、それぞれ先行きの業況判断がはっきりと改善する見通しになっています。個人消費関連では、雇用・所得環境の改善を背景に、底堅さを維持するとの見方が多いように感じています。

なお、新興国経済の減速の影響などについての見方が、県内企業はやや慎重という印象があります。世界経済の先行きに関するメインシナリオは、米国経済の強さが、新興国経済の弱さをカバーするというものであり、この場合には為替は円安方向に振れやすく、わが国の製造業企業の業況を下支えすることになります。

一方、リスクシナリオは、新興国の減速が更に深いものとなって、それに引き摺られて米国の景気減速が生じるというものです。その場合には、為替円高の動きを伴い、製造業企業の業況は大きく下押しされることとなります。

今からご説明いたします事業計画では、企業が、こうしたリスクシナリオを幾分意識していることが窺われます。

次のフリップをご覧ください。

想定為替レートと収益計画

円/ドル

	2013年度	2014年度	2015年度	前回調査比
想定為替レート (製造業)	99.42	108.11	112.05	0.64

前年度比、%

	2013年度	2014年度	2015年度	前回調査比 修正率
売上高 (全産業)	10.9	1.0	▲0.7	▲0.1
経常利益 (全産業)	9.5	1.6	5.9	0.0

(神山支店長) 短観では、企業の事業計画とともに、その前提となる為替レートも調査しています。これが想定為替レートですが、今回の事業計画では112円と、実勢よりもかなり円高の水準で据え置かれています。全国短観では、時間の経過とともに想定為替レートが円安方向に修正される中で収益の上方修正が続いていますが、群馬県短観では、そうした修正はみられませんでした。これは、仮に事業環境が大きく悪化した場合にも備えて、収益のバッファをしっかりと確保しておきたいということなのだろうと考えています。

なお、上方修正の有無にかかわらず、企業収益の水準は高水準です。そうしたもとで、企業の設備投資意欲は堅調です。

次のフリップをご覧ください。

設備投資計画				前年度比、%
	2013 年度	2014 年度	2015 年度	前回調査比 修正率
全産業	4.5	7.5	0.1	0.2
製造業	0.6	21.2	4.8	▲1.8
非製造業	12.2	▲14.4	▲10.2	5.7

(神山支店長) 設備投資計画は、2014年度に前年比+7.5%の増加となったあと、15年度は前年比+0.1%と、前年並みの計画が維持されています。製造業については、前回調査から若干下方修正されたのですが、これは、建設作業員の人手不足などから工事進捗に遅れが生じた結果、計上タイミングが翌年度にずれ込む見込みとなったことが主因です。

以上まとめますと、現状、景気の足腰は比較的しっかりしているとみられます。企業の業況判断は悪化しましたが、一時的な悪化という面もあり、調整は一時の踊り場的なものにとどまる可能性が高いと考えています。

(キャスター) 本日は、『日銀短観でみる県内経済の足取り』をテーマに、お話をうかがいました。ありがとうございました。

以 上